

平成23年1月期第2四半期決算発表 ご説明資料

(当社第1期第2四半期 平成22年2月1日～平成22年7月31日)

平成22年9月14日
CHIグループ株式会社

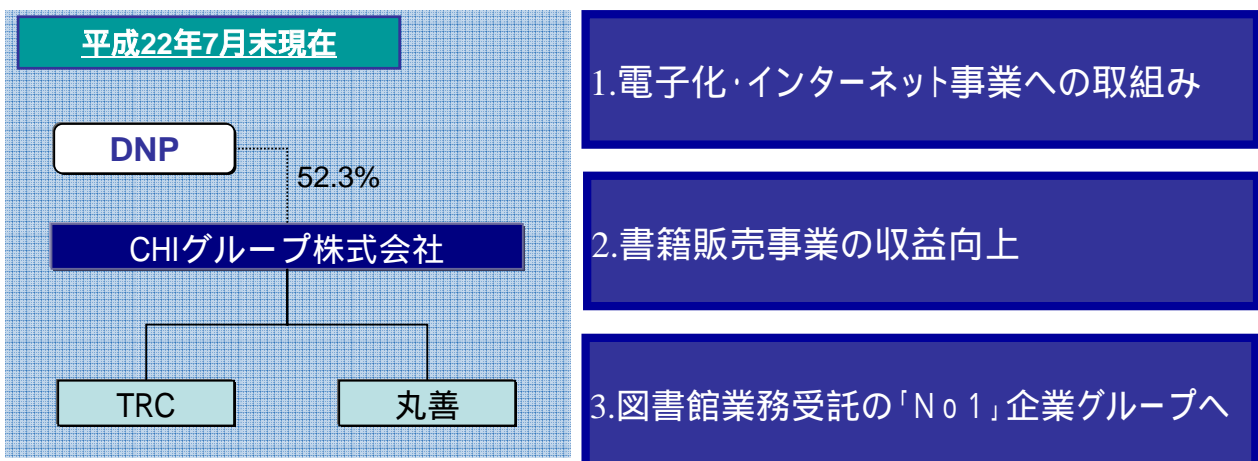
説明者：代表取締役社長兼最高経営責任者 小城 武彦

CHIグループ株式会社は、丸善株式会社と株式会社図書館流通センターが平成22年2月1日に経営統合し、設立した共同持株会社です。 東証1部上場(証券コード3159)



1. 当期の位置付けと設立時の方針

- 平成22年2月、丸善株式会社と、株式会社図書館流通センター(TRC)が経営統合して共同持株会社「CHIグループ株式会社」を設立し、同日、東証1部に上場。
- 「知の生成と流通に革新をもたらす企業集団となる」をグループビジョンとして、日本の社会に貢献することを目指す。



2. 当第2四半期業績サマリー（連結）

- ▶ デフレの継続、雇用・消費の停滞に加えて、円高の急激な進行による景気低迷の不安感から、景気の本格的な回復にはまだ時間がかかる状況。
- ▶ 大学、図書館向け事業は順調に推移するも、店舗・ネット販売、及び出版事業は個人消費の停滞の影響を受けて厳しい結果となった。
- ▶ 販管費の削減（店舗、事務所の賃借料の減少）の結果、連結業績（営業利益・経常利益）を上方修正。一方、デジタル化関連事業への取り組みを含めた中期計画を策定中であることから繰延税金資産を取り崩し、四半期純損失を計上することになった。〔本年9月8日に公表〕

（単位：百万円）

【平成23年1月期第2四半期】	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
業績当初予想値 （6月14日発表）	67,500	410	340	20
実績（本日発表）	66,370	915	866	32
対業績予想 増減額	1,130	505	526	52
対業績予想 比	98.3%	132.2%	154.7%	

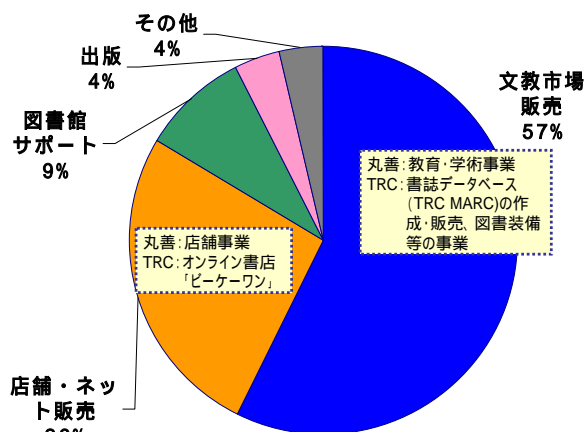
2

All Rights Reserved, Copyright© CHI Group CO.,LTD.2010

3. 当第2四半期の損益ハイライト（連結）

全社計 （単位；百万円）

平成23年 1月期	1 Q	2 Q	累計
売上高	39,873	26,497	66,370
売上総利益	8,614	6,458	15,073
販管費	7,021	7,138	14,158
営業利益	1,592	679	915
経常利益	1,534	669	866
四半期純利益	827	859	32



セグメント別情報

（単位；百万円）

第2四半期累計	文教市場販売事業	店舗・ネット販売事業	図書館サポート事業	出版事業	その他事業	消又又は全社	合計
売上高	38,029	17,550	5,852	2,485	2,452		66,370
営業利益	2,503	452	324	277	281	2,017	915

参考値

売上高対前年比	100.5%	93.4%	129.6%	92.7%	119.1%		100.9%
---------	--------	-------	--------	-------	--------	--	--------

当社は平成22年2月1日に丸善株式会社と株式会社図書館流通センターが経営統合し、両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。当連結会計年度が第1期で前期実績がないため、比較対象の対前年比は参考値になります。

3

All Rights Reserved, Copyright© CHI Group CO.,LTD.2010

4. 主要事業 文教市場販売事業

(単位;百万円)

平成23年 1月期	1 Q	2 Q	累計
売上高	25,388	12,641	38,029
営業利益	2,008	495	2,503

セグメント事業

- 学術研究、教育に関する電子を含む出版物の提供
- 英文校正・翻訳サービスをはじめとする研究者支援ソリューションの提供
- 図書館用書籍の販売、書誌データベース(TRC MARC)の作成・販売、図書装備等の提供
- 教育・研究施設、図書館などの設計・施工、大学経営コンサルティングなど各種ソリューションの提供
- 大学内売店の運営、教科書販売

●ポイント

- ・大学向け教科書販売など和書売上は堅調に推移。
- ・設備工事口の大型案件の減少が影響して売上が減少するも、原価改善の取組みやDNP協業のソリューション提案が奏功し、営業利益では前年を上回る。
- ・公共図書館向け図書販売では、堅調に推移。

第1四半期の傾向は、顧客の期末(3月)と大学教科書の売上計上期が集中。

4. 主要事業 店舗・ネット販売事業

(単位;百万円)

平成23年 1月期	1 Q	2 Q	累計
売上高	9,302	8,247	17,550
営業利益	61	390	452

セグメント事業

- 主に全国都市部を中心とした店舗網にて、和書、洋書、文具・雑貨等の販売
- オンライン書店「ピーケーワン」の運営

●ポイント

- ・戦略的に不採算店の撤退を進めた結果、当期間に4店舗を閉店。このうち「福岡ビル店」は、来春出店予定の「博多店(約800坪/複合型店舗)」の出店準備のために閉店。
- ・個人消費の停滞の影響を受け、5月以降の既存店の売上で苦戦し、経費改善に取り組むも、営業利益は前年を下回った。
- ・4月にジュンク堂書店内に「鹿児島マルヤガーデンズ店」を、また7月に「アズ熊谷店」を出店した結果、当期末店舗数は41店舗となった。
- ・オンライン書店「ピーケーワン」は堅調に推移。

4. 主要事業 図書館サポート事業

(単位;百万円)

平成23年 1月期	1 Q	2 Q	累計
売上高	2,735	3,116	5,852
営業利益	208	116	324

セグメント事業

- 公共図書館、大学図書館の業務(カウンター業務、目録作成、蔵書点検等)の請負
- 指定管理者制度による図書館の運営業務
- PFIによる図書館運営業務及び人材派遣

●ポイント

- ・業務受託件数は順調に推移し、第1四半期末から73館増加し、当期末時点の合計数が590館となった。
〔内訳〕7月末現在： 公共図書館261館 / 大学図書館117館 / その他図書館212館
- ・丸善とTRC共同の研修システムによるEラーニングを実施し、サービスレベルの向上により競争力をアップ。

4. 主要事業 出版事業

(単位;百万円)

平成23年 1月期	1 Q	2 Q	累計
売上高	1,171	1,314	2,485
営業利益	108	168	277

セグメント事業

- 丸善株式会社の出版事業
『理科年表』等の理工系分野中心の専門書、事典、便覧、大学テキスト等の刊行。及びビデオ・DVDの発売。
TRC子会社 岩崎書店
絵本・童話などの児童書、図書館向けの書籍の刊行。

●ポイント

- ・消費不況の影響から、既刊書の売上が伸び悩んだ。
- ・また、一部の大型企画の刊行時期が下期へずれたことで売上計画に影響した。

4. 主要事業 その他事業

(単位;百万円)

平成23年 1月期	1 Q	2 Q	累計
売上高	1,274	1,177	2,452
営業利益	135	145	281

セグメント事業

- 書店、その他小売店舗向けに、企画・設計デザイン、建設工事、内装工事、店舗什器、看板、ディスプレイ等のトータルプランニング
- その他

●ポイント

- ・小売店舗向けの大型リニューアル案件や、キャンペーン活動による案件獲得に注力したことが奏功し、売上高、営業利益とも計画を上回る実績。
- ・大日本印刷との協業の効果で、新規顧客の開拓が進み、書店以外からの内装受注も伸長。

5. 通期予想

通期見込については、以下の理由から前回発表数値を据え置く。

- ✓ 急激な円高の進行による景気動向の不安定さなどから、引き続き個人消費動向に浮揚感がないこと
- ✓ 現在準備を進めているデジタル化関連事業に対し、相応の先行投資が必要であること

(単位;百万円)

【平成23年1月期通期】	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
業績予想(6月14日発表)	130,000	690	420	640

(ご参考) 当第2四半期のトピックス

- 平成22年 2月1日 当社設立。同日、東証1部に上場
- 6月29日 ジュンク堂書店を、来年2月1日を期して当社の完全子会社とすることを発表
丸善の店舗事業を分社化し、8月2日付けで「丸善書店株式会社」を新設することを発表。
また、新設会社は来年2月1日を期して当社の完全子会社とすることを発表
- 7月1日 丸善、株式会社雄松堂書店及び大日本印刷で、洋書及び海外学術研究資料の輸入・販売に関する業務提携契約を締結
- 7月8日 大日本印刷と当社が、日本最大級のハイブリッド型電子書店を今秋開設と発表

